臺灣日日新報（第二期）（原漢文報）（明治一平五年九月九日第三種郵便物認可）　昭和七年八月十四日

第一万一千六百二十號　臺灣日日新報（日曜日）　（一）

臺灣日日新報 夕刊

八月十三日

夕刊定價一個月金五錢

植民地米管理案 臨時議會に提出

買上資金五千五百萬圓

農林省で具體案作成を急ぐ

【東京十二日發電通】農林省では植民地米の移入管理に關し來る臨時議會までに何等かの成案を得る爲め拓務省、朝鮮、臺灣兩總督府と種々折衝の結果最近農林、拓務兩省の意見全く一致を見たので農林省では愈々植民地米管理案を來る臨時議會に提出すべく具體案作製を急ぐこととなつた、その內容は

內地米買上金一億四千萬圓と共に更に植民地米買上資金として五千五百萬圓を加へ一億五千五百萬圓の買上資金限度擴張を行ひ同時に前記米價維持に關する新法律に依る植民地米買上げを行ひ得る樣に改正する

尙右の如く米價維持に關する新法の制定に依り米穀特別會計法を以て植民地米を五千五百萬圓を限度として買上げ、以て出廻期に於ける內地市場への殺到を防止せんとするものである

一二三千萬圓は 復活を容認か

二日打續けの大藏省議を開き 十三日に最後決定

【東京十二日發電通】十二日大藏省では昨八千萬圓の追加に關する時より本省は勿論、東京市內各銀行會社に關係ある者は殆ど全部出勤して午後九時まで省議を續けたが、その結果主として內務、農林兩省の主張を中心として各省の復活要求を容認することに決し、十三日閣中の意見調整を經て省議を開き最後的決定をなすことに申合せたが、大藏省では十三日中に最後的決定をなすことは困難視されて居り、尙ほ一二、三萬圓程度の復活は已むを得ぬであらうと

五名の委員 軍事政務を處理

學良は外遊まで 萬壽山に引籠る

【北平十二日發電通】張學良は外遊出發までの二、三週間萬壽山の西太后離宮內に引籠ることに決し同所に於ける軍政處理は九月末張總司令歸任まで左記五委員の合議制に依ることに決した

（一）黃郛、（二）張群、（三）何應欽、（四）熊式輝、（五）莫德惠

報告書は空輸か

リ卿の病氣で報告書は 總會の間に合ふか否か

【北平十二日發電通】リットン卿の病氣惡化し居るも、國際の輿論も協力して報告書の空輸を主張し居るに至つたので愛知總領事は九月一日頃迄に報告書を提出する樣リットン卿に勸告することとなつた

【ジュネーブ十二日發電通】リットン卿は十二日午後ジュネーブに到着する豫定であつたが、同卿の病氣惡化し居るも、國際の輿論も協力して報告書の空輸を主張し居るに至つたので愛知總領事は九月一日頃迄に報告書を提出する樣リットン卿に勸告することとなつた

【ジュネーブ十二日發電通】リットン卿の病氣惡化し居るも、國際の輿論も協力して報告書の空輸を主張し居るに至つたので愛知總領事は九月一日頃迄に報告書を提出する樣リットン卿に勸告することとなつた

【ジュネーブ十二日發電通】リットン卿の病氣惡化し居るも、國際の輿論も協力して報告書の空輸を主張し居るに至つたので愛知總領事は九月一日頃迄に報告書を提出する樣リットン卿に勸告することとなつた

【北平

本日『國王上水』りた々赫
═世界制覇の大勢玆に全く決す═

二つの選手權を奪取
殘る二つも絶對制覇
日本選手團の意氣衝天

世界制覇の大勢決す！「水泳日本」の優勝は決ったのだ！百米背泳決勝に日本背泳界のフエヴアリツト清川、入江、河津のトリオが堂々全勝の偉勳を樹てたのだ、アリカのゼーバー、獨のキユツパースの何い鬼の强かつたことよ！そして當つてくだけろではなかつた、何といふ强い鬼だつた斯くて日本水上軍は百米自由型、八百米競泳、百米背泳の三つの選手權を奪ひ去つて世界制覇を高らかに唱ふることに決つたのだ、そして百米平泳、千五百自由型と二つの選手權をも日本のものとして絶對制覇の日を迎へんとしてゐる、小池、鶴田、中川と日本水泳陣一般はもとより、北村の長距離型、小池の背泳、鶴田の平泳等に於ても世界記錄を出して壓倒れ勝ちをレース低にはせて來た少年小池に保證する所總々だ、日本水泳界の明日を擔ふ少年よ勝て！捷て！堂々スポーツの正道に則つて！

清川がトツプを切つて
入江、河津之に續く壯觀
スタンドは物凄い聲援　百米背泳決勝

百米背泳決勝……これに日本タイトルを傳人か並に日本競勝の日本世界記錄の偉業成るのだ……コース日本清川、入江、米のゼーアー、獨のキユツパース、米のカーバー、日本清川の順カルフオルニアを驅ける微風が水面を撫ぶのみ、スタデアムは依然凡ては靜かす、スタンドは靜の緊張に醉うてゐる、スタートバーが緊合つてゐる、スタンドは物凄い緊張感だ、清川ゴール二米半

遲れて　入江、河津、ゼアーアタツチ、二米入江、河津三著、僅かに遲れてゼアー、清川のタイム一分八秒六、入江一分九秒八、河津一分一〇秒、ゼアー一分一〇秒九、キユツパース一分一〇秒三、カーバー一分二〇秒八

斯くて入江、河津、ゼアー、カーバーの順に入江、河津と清川の間に割つて入つたが清川は一瞬早く入江、河津を抑へて一着、ゴールに入つた清川は一瞬ぐつたりしたが世界レコードが破れなかつたのが殘念だつたらしい、そして直ぐ清川は一瞬早く入江、河津を抑へて一着、ゴールに入つた清川は一瞬ぐつたりしたが世界レコードが破れなかつたのが殘念だつたらしい、そして直ぐ清川は一瞬早く入江、河津を抑へて一着、ゴールに入つた

◇第二組

一、ジータス(獨)二分四十秒六
二、イルデフオンゾ(比)二分四八秒四
三、中川重雄(日)二分五二秒

◇第一組

一、小池禮三(日)二分四四秒九(オリムピック新記錄)
二、鶴田義行(日)二分四五秒四(オリムピック新記錄)
三、アンヤルデンス(比)二分五〇秒二

◇第二組

一、ジータス(獨)二分四十秒六
二、イルデフオンゾ(比)二分四八秒四(從上オリムピック新記錄)
三、中川重雄(日)二分五二秒四

小池、鶴田が
大記錄で入選
二百米平泳準決勝

午後三時五分二百米平泳準決勝第一組のスタート……何といふ組合せだ！コース順ラインゴールド(米)ギラム(比)鶴田、カルトンネ(米)小池

世界平泳界の巨星が相會したのだ之にイルデフオンゾを加へれば決勝レースの顏觸れだ、鶴田、小池は三位を狙いである

スタートバーが落ちた、一斉に飛び込んだ、カルトンネ、ギラム、鶴田、小池がピツチをあげ、グングン出た、カルトンネ依然カルトンネリードの儘で鶴田、小池ターン、鶴田トップ、小池續いて五〇のターン、チキラム猛烈な追込みだ、カルトンネ小池グングン出る、鶴田二分四五秒、チキラム・フヂヤルデン二分五〇秒二、カルトンネ二分五〇秒、ラインゴールド二分五四秒九

第二組コース　奥のギタス、次のスペンス、比のイルデフオンゾ、日本中川……スタートギタスリード、比のイルデフオンゾ、日本中川、スペンス、米のカルトンネ、ジータス、スペンス、ギタス二分四五秒八、中川二分五二秒、スペンス二分五三秒七

水上競技

【ロサンゼルス十二日發電通】十二日の水上競技陸上の如し

二百米平泳準決勝
日本の三選手共に入選

◇第二組

一、小池禮三(日)二分四四秒九(オリムピック新記錄)
二、鶴田義行(日)二分四五秒四(オリムピック新記錄)
三、アンヤルデンス(比)二分五〇秒二

◇第一組

一、ジータス(獨)二分四十秒六
二、イルデフオンゾ(比)二分四八秒四(從上オリムピック新記錄)
三、中川重雄(日)二分五二秒

女子高飛込決勝

鎌倉孃第六位

午前九時(當地の十三日午前一時)當會競技場の飛込決勝が行はれた

一、アメリカ　四分三八秒(オリムピック新記錄)
二、オランダ　四分四七秒五
三、イギリス　四分五二秒四
四、カナダ　五分五秒七
五、日本(小島)一枝、橋田みさを
六、ラーワン(ア)三點九八
七、エップリー(英)二六點七六

女子高飛込決勝は午前九時(當地の十三日午前一時)當會競技場で行はれた、米國の鎌倉孃が第六位に入つた、次は風に吹られ會々火災を得て立に大事を仕でかしたものである

女子四百米リレー決勝
日本五位

一、ホイツトフイールド(米)五分六秒七
二、ハーバート(米)
三、ヒルデブランド(米)
四、ハーバート(米)
五、ウイルソン(米)

女子四百米リレー決勝は午前九時(當地の十三日午前一時)當會競技場で行はれた、米國の鎌倉孃が第六位に入つた、次は風に吹られ會々火災を得て立に大事を仕でかしたものである

遠野中勝つ
四對二　對平壤中學戰

【羅津電話】羅津中學の招聘に應じ來羅中の平壤中學一行は十日午後三時から羅津中學校で野球試合を行つたが羅津中學は四對二で平壤中學を破つた(試合時間二時間五分)

全國中等野球優勝戰
甲子園球場の開幕
4A0　明石中、北海中を破る

(試合時間五分)

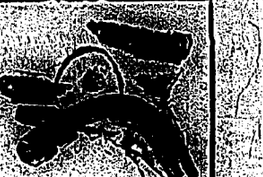
(先)	明石中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後	北海中	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

(試合時間二時間五分)

(先)	鹿兒島二中	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4
後	平壤中	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

殘月譜 (254)

志乃田廸司作
清水三重三畫



第二の脱走 (一)

所詮、結婚生活をつづけるより外ない、と悟ったのだ。

しかし、一旦、結婚した以上、そう容易に離婚を申し出ることは、彼女の自尊心が許さなかった。

彼女は、それを、つくづくと感じたのだ。

殊に、いくら、名ばかりの夫婦とはいえ、相手が、良人の親友であるだけに、なおさら、離婚を申し出ることは、彼女の自尊心が許さなかった。

しかも、彼女は、良人の親友である、三角關係の相手、青年畫家、K氏に、ひそかに、思慕の情を抱いていたのだ。

K氏は、良人の親友であるだけに、彼女にとっても、兄のような存在であった。

K氏は、彼女の良人が、彼女を、ほんとうに愛していないことを、知っていた

漢文臺灣日日新報

植民地移入管理案
決定提出臨時議會
買收資金限五千五百萬圓

十三日東京電。農林省。關植民地米移入管理。至來臨時議會。欲得成案。與拓務省。頻鮮。臺灣兩總督府。種種折衝。最近農林。拓務兩省。意見全然一致。農林省。決定急作成案。以便來臨時。議會提出。其內容內地米買上金。增一億圓。加加五千五百萬圓。爲植民地米買上資金。即讓渡一億五千五百萬圓之買上資金限度。同時改照前記。米價維持所關新法律。使得買收殖民地米。即關米價維持新法制定。以米穀特別會計法。限五千五百萬圓。買收植民地米。以防堂塲期。殺到內地市場云。

大藏審議求復豫算
承認一二三千萬圓

十二日東京電。十二日。大藏省主計局。復活要求殺到。總額約八千萬圓。大藏省。十二日午後六時。除臥病中之高橋藏相外。概切。黑田兩次官。上塚參與官。至午後九時。在本省閣省議。協議對策。結果決定內務農林兩省土木事業等爲中心。各省復活要求。承認若干。且約十三日。煩之藏相。再開省議。十三日中。最後決定。大體八千萬圓復活要求中。約承認二、三千萬圓之程度。非得已也云。

國際勞働會議
九月廿一日開壽府

十二日華府電。意國代表所唱國際勞働局特別幹部會。十二日開後。爲現下世界經濟惡化緩和計。且提出勞働時間一週四十時間之案。來九月二十一日。於壽府召集國際勞働會議云。

調查團報告九月末
不及提出聯盟總會

十二日北平電。李頓卿病狀不進。在病床執務。起草中報告書。或不及於九月末召集聯盟總會提出。亦未可知。委員且暫報告書。經印度。或印度支那。經檳於暮府。又全委員。九月二日。或發當地。經西伯利半頓卿。或海路經瑞士而往云。

中外要電

美國務卿失言釋明

東京消息。駐美出淵大使。十日於國務省。訪斯篤遜長官。質問八日。於外交調查會席上演說問題。聽取內容。報告如左。

一、余別無使美國與日本爭於滿洲。

二、唯爲明示不戰條約九國條約之精神。往々對於我日本之神經。吐露意見。請善見諒。

三、侵略者之語。正於抽象的。不特指日本。

我外交當局。因此釋明親同感水。然爲利用內政關係。屢次失言該長官。非以爲不謹慎。似未釋然云

官吏保障協定成立

東京消息。目下樞密院審查委員會。審議官吏身分保障案。堀切法制局長官。去十二日。定例閣議前後。與閣僚討論該會對案之意見。大體以樞府亦承認政府主張。

一、委員會之構成。刪除帝記官長。增加他官吏三名。部外委員一名。計七名。

一、不妨設法。制限委員長投票權行使。

兩者間協定成立云。

豫算內示會十九日

東京消息。政府對貴衆兩院。豫算內示會。合卜來十八日。乃去十二日閣議決定十九日云。

滿洲視察談補錄

（其一）　臺南　黃欣氏

哈爾賓者。明治四十二年十月二十六日。公爵伊藤博文遭難之處也。大正十四年。余遊南滿時。以事不果往。至今念之。故不論若何危險。必欲一臨其地。只完宿願。三十夜山展望。一時千里。綠野連雲。日棟之處。瞥見群鴉。旁則有假火。非大之動物。雖歲其間。一幅天然圖畫也。道車接近時。所謂鴉者非鴉。乃豚也。似犬非犬。爲吾臺則視以圍繞。範以木柵。雖風雨當頭。不能稍越雷池半步。而此處則悠々自適。吸新鮮之空氣。接自然之景物。最憂之家。豬亦有幸有不幸耶。余因該兵柔顧若鼠。一任解除武裝。全無抵抗。余代不乘至沙應聲。始出驛之作業夫。昇往該地新專賣館。爲之應。急手衛。瑤家人聞始得拐起。及著汎者。授辱一二時間。則日軍服上下衣不同。帽亦右異。其妻與母。立陵往沙

華南銀行
同行帶開發南洋金融使命

總資金一千萬圓。至九月。方得開總會開議之。上記出資金。只是一百七十五萬圓而已。而同行得山臺銀融通無利子資金五百萬圓。以之年放。每期皆舉十數萬圓利金。如得七百五十萬圓而已。無不能也。（未完）

臺銀內定配利（上）
華南銀行同時可配
商工貯蓄次期得實行
十期間無配之苦已除

臺灣銀行。自昭和二年。即遭鈴木商店倒閉。同行貸付金。損失數千萬圓。一時銀行幾乎不起。幸得政府融資八百五十萬圓。株得照常開業。然自昨年下半期。計十期間。絕無配當。株主總會。兩回減資而追加內地方銀行中。久無一般以該演說。於市場無興之華南。商工。貯蓄銀行。近來業績漸次恢復。已很配當。最近同行每期皆舉純利四十餘萬圓。欲配當已無不可。故各行尚抽手傍觀。今者臺銀如果實行。則華南銀當自九月總會之七年度下半期。商工。貯蓄兩行。亦與大藏省交涉。據十二日東電。稱九月一日決開株主總會。配當率大藏省主張三分。同行則拔四分。總之。配當實行之事。已無可疑。而追加內地方銀行中。久無問題。双方俱要。非常努力。他若倉庫會社問題。已照三銀行。近來業績漸次恢復。已很配當。最近同行每期皆舉純利四十餘萬圓。欲配當已無不可。故各行尚抽手傍觀。今者臺銀如果實行。則華南銀當自九月總會之七年度下半期起。實行配利。臺灣銀行。臺銀內定配利。華南。商工。貯蓄兩行。年。減資爲三百七十五萬圓。越昭和二年。復減少爲百七十五萬圓。現一株數人三十三圓五十錢。時價只值六圓內外。最初株主。三十株至今只存七株也。（未完）

臺南銀行
同行帶開發南洋金融使命

總資金一千萬圓。至九月。方得開總會開議之。上記出資金。只是一百七十五萬圓而已。而同行得山臺銀融通無利子資金五百萬圓。以之年放。每期皆舉十數萬圓利金。如得七百五十萬圓而已。無不能也。（未完）

東石　漢藥組合

東石郡下漢藥組合設置案。前經東石郡參事會。許可。其組合區域。東石郡下全部。組合員。二十七名。內容開爲設立。其所設入的案。全部是他三四親友。臨時合行。收入甚多。與某洋行○○○先生。其所設入的案。全部是他三四親友。臨時合行。收入甚多。與某洋行○○○先生。其所設入的案。全部是他三四親友。臨時合行。收入甚多。與某洋行○○○先生。

新竹　敎育研究會

新竹州第十四學校職員兒童陸球大會。訂來九月十八日。開于新竹高女學校庭。選手由小公學校兒童。組高等科。補習學校。公民講習所生徒。選男女教員等。選拔參加。是日勤務休。午前八時。由臺中地方法院竹內。隨審判官。帶同書記通譯等。押赴現場。實地檢證。至午後三時頃。審問終了。乃再押赴同國白裴殺人之犯行場所檢證。至五時餘。終了歸臺中。

豐原　現場檢證

本年三月中旬夜間。製製原街公設質舖。強盜手提金庫之強盜團林清奇。外五名。去十一日。午前八時。由臺中地方法院竹內。隨審判官。帶同書記通譯等。押赴現場。實地檢證。至午後三時頃。審問終了。乃再押赴同國白裴殺人之犯行場所檢證。至五時餘。終了歸臺中。

巡廻書庫

總督府圖書館。及臺中圖書館二處之巡廻書庫。合計設置二百餘箇所。指定左記日程及場所。供一般觀覽。

八月七日至末日止　豐原文庫

九月一日起十日間　豐原小學校

九月十一日起十日間　豐原公學校

朴子信組
臨時總代會
議建築事務所

東石郡朴子街朴子信用組合。去十一日午前十時。假朴子街役場樓上。爲召開臨時總代會。總代員五十餘名中。出席者四十五名。先由組合長蔡超氏。報開會辭。次協議該案及製造方法。頗保持衛生之設備。及建築工事。決定來二十日。入札。將著手建築云。

豐原製紙
會社職工
被車索捲斃

豐原街豐原製紙製材株式會社職工張阿癸。年三十二。當街字會子人也。自去年五月。入該會社製紙工場。爲卸解機職工。去十一日午前二時半。因不慎觸轉中之車索捲去。發見新盛橋大通。二軒餅店。且無設備防蝕。極不清潔。卸命改造。又其中一軒。川井水。且井戶。在便所逸出之水混淘。於是禁止使用。更命塞埋該井云。

美日滙水

廿五弗五十五仙

十二日紐育電。十二日美日滙水。更跌三十二仙二分一。爲二十五弗五十五仙云。

株式跌落
主力株落四弗餘

十二日紐育電。昨日稍軟之株式市場。本日更因米棉等跌落。主力株一氣落和四弗四分。爲三十八弗八分一。其他重要株。一齊跌落云。

十二日紐育電。連日好調之紐育株式市場。商人所忌之金曜日。遂反所期。美棉跌落。人氣惡化。此次大甲街陳啓明。李哲得。彰化街洪溪。黃木炎以上帽子業。及日勤勞働。由體協支部長。授優勝杯。個人優勝。各有賞品云。

臺車成績

新竹郡下。臺車之定期檢查。由高橋巡查部長出張。已執行告終。六家庄鹿埔紅毛土五棟中合格十二棟。紅毛庄紅毛土棟之中。合格八棟。同庄福興十四棟。合格十棟。湖口庄北勢十六棟中。合格十五棟。羽地庄在夜間託現役將校。指揮訓練。以備非常之時。立於第一線活動。現由服部署長。計畫中。又署內軍隊出身者。有四十餘名。

望勿降格與北部同
西螺土庫斗南米界代表
來北陳情於當局

西螺米穀協會長張鴻璽。午後赴正米市場。會見員山常務理事。陳情現在建值撤廢之事云。

基署軍隊出身
組特別班

基隆警察署。擬組一特別班。出身者。擬組一特別班。在公會堂。決定至外遊起行之日。一二三週間。移之萬華山西大后離宮內。其衛兵既配該地一帶。其後機者未任命之間。北方軍事政務。合以萬福麟。手學忠。商靈。宋哲元。龐炳勳五名委員制處理云。

張學良未起行之間
暫移之萬壽山離宮
後任委員制度

十二日北平電。張學良。決定至外遊起行之日。一二三週間。移之萬壽山西大后離宮內。其衛兵既配該地一帶。其後機者未任命之間。北方軍事政務。合以萬福麟。手學忠。商靈。宋哲元。龐炳勳五名委員制處理云。

歐亞航空訂九月初
開西伯利北平郵便

十二日北平電。歐亞航空會社。週來爲滿洲國郵便封緘後。出歐洲之郵便物空輸。實地調查。決定九月初以北平爲起點。次於洛陽。西安。漢州。庫倫。開辦西比利亞北平間定期航空郵便云。

滿洲視察談補錄

（其一）　臺南　黃欣氏

哈爾賓者。明治四十二年十月二十六日。公爵伊藤博文遭難之處也。大正十四年。余遊南滿時。以事不果往。至今念之。故不論若何危險。必欲一臨其地。只完宿願。三十夜山展望。一時千里。綠野連雲。日棟之處。瞥見群鴉。旁則有假火。非大之動物。雖歲其間。一幅天然圖畫也。道車接近時。所謂鴉者非鴉。乃豚也。似犬非犬。爲吾臺則視以圍繞。範以木柵。雖風雨當頭。不能稍越雷池半步。而此處則悠々自適。吸新鮮之空氣。接自然之景物。最憂之家。豬亦有幸有不幸耶。余因該兵柔顧若鼠。一任解除武裝。全無抵抗。余代不乘至沙應聲。始出驛之作業夫。昇往該地新專賣館。爲之應。急手衛。瑤家人聞始得拐起。及著汎者。授辱一二時間。則日軍服上下衣不同。帽亦右異。其妻與母。立陵往沙

太魯閣峽公園
調查範圍

花蓮港廳務課及研海支廳勝地宣傳協會等。爲決定國立公園候補地範圍。派關係者入山。赴台歌山及砦峯主山。約十二里。出能高線歸花之探險隊。此次初踏查。爲出席臨時議會。長官十八日上京。

長官十八日上京
帶有臺米制限阻止要公

平塚長官。因來二十二日。開會之第二回臨時議會。至十六日之閣議完了。督府須向東京立在第一線之。當局者殊大勉强。總督府方案。能得通過乎。非容易。雖言以公債之事。然公債。亦有限度。不能無限問題。於本島經濟界。有重大影響。是亦局一難。

長官上京前
談救濟案及臺米制限等

平塚長官。上京前談曰。本島農村救濟案。拓務省。已研究終了。大藏省。加以查定。結局於來十六日閣議。決定。一在政府。

火燒茅屋三間

海山郡板橋街社後十五番地胡盛丁之茅屋。去十二日午前十時頃。與苦力大甲郡人林瑤。同操乘已。日午前十一時四十分。山炊事場。煙突出火。燃及屋蓋。時值强風猛烈。火勢衝天。被隣婦卓氏來有。幾見呼救。附近諸人。聞報亦至。協力撲救。至午後九時。始得鎮火。延燒家屋。僅燒一棟三間。總損失約百餘圓。隣家茅屋十數棟。不幸中之大幸也。

結婚不遂
少女悲觀服毒

臺北市若竹町二丁目二十二番地平松初子。年二十三。去十一日午後六時半在自宅。服基圖死。苦悶中。早被家人發見。急入臺北醫院療治。奈其原因爲初子。五年餘與臺灣軍司令部某軍曹戀愛。約爲夫婦。山男家提出結婚屆。對軍司令官。申請婚姻許可。被其却下。轉以告女友遂悲觀之念云。

豐原富春製氷
爲水質不善
被命停製

豐原街富春製氷株式會社。去十日午後二時頃。突有臺中州衛生課技手臨場。命令機械。運轉停止。聞爲水質檢查。結果以有機物含有量。超過定量。現該會社當事者。正極力對使用水之裝置改善考究中。不日裝置完成後。當可再行運轉云。

詐欺未遂控訴
開於高等法院
檢察官照原審求刑

開於現住市內壽町二丁目來十九日云。

朴子信組
臨時總代會
議建築事務所

東石郡朴子街朴子信用組合。去十一日午前十時。假朴子街役場樓上。爲召開臨時總代會。總代員五十餘名中。出席者四十五名。先由組合長蔡超氏。報開會辭。次協議該案及製造方法。頗保持衛生之設備。及建築工事。決定來二十日。入札。將著手建築云。

豐原製紙
會社職工
被車索捲斃

豐原街豐原製紙製材株式會社職工張阿癸。年三十二。當街字會子人也。自去年五月。入該會社製紙工場。爲卸解機職工。去十一日午前二時半。因不慎觸轉中之車索捲去。發見新盛橋大通。二軒餅店。且無設備防蝕。極不清潔。卸命改造。又其中一軒。川井水。且井戶。在便所逸出之水混淘。於是禁止使用。更命塞埋該井云。

臺中警察署
調查餅店
命改造製造場

臺中警察署。雇對市內餅店及製造者。頭保持衛生之設備。及建築工事。決定來二十日。入札。將著手建築云。

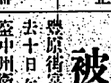
發動機貨物自轉車
在龍井與列車衝突
運轉手苦力均負重傷

臺中州彰化郡龍興庄三汴頭人林灰。去十一日。午前十時頃。與苦力大甲郡人林瑤。同操乘已日午前十一時四十分。山地胡盛丁之茅屋。去十二日。午前十時頃。與苦力大甲郡人林瑤。同操乘已。

青年溺死
在古亭庄水池

臺北市古亭町二三三番周士衡氏。年三十四。滿社員也。現爲詩報編輯。去十二日。午前八時。有事至士林。造十一時頃歸宅。到其自宅附近池沼汰浴。該池乃爲等學校。建築用壜土之池。水深丈餘。周氏誤履深地。遂至沈沒。池邊有人。見其入水後。呑蹤惡。知係附近居人。因遍詢近隣人家。果有周氏入浴。因急報同地警官。到現場撈。於是計算里程。約水由。溺死一時。開廷。

是？非？



臺北市若竹町二丁目二十二番地平松初子。年二十三。去十一日午後六時半在自宅。服基圖死。苦悶中。早被家人發見。急入臺北醫院療治。奈其原因爲初子。五年餘與臺灣軍司令部某軍曹戀愛。約爲夫婦。山男家提出結婚屆。對軍司令官。申請婚姻許可。被其却下。轉以告女友遂悲觀之念云。

豐原富春製氷
爲水質不善
被命停製

豐原街富春製氷株式會社。去十日午後二時頃。突有臺中州衛生課技手臨場。命令機械。運轉停止。聞爲水質檢查。結果以有機物含有量。超過定量。現該會社當事者。正極力對使用水之裝置改善考究中。不日裝置完成後。當可再行運轉云。

發動機貨物自轉車
在龍井與列車衝突
運轉手苦力均負重傷

臺中州彰化郡龍興庄三汴頭人林灰。去十一日。午前十時頃。與苦力大甲郡人林瑤。同操乘已日午前十一時四十分。山地胡盛丁之茅屋。去十二日。午前十時頃。與苦力大甲郡人林瑤。同操乘已。

青年溺死
在古亭庄水池

臺北市古亭町二三三番周士衡氏。年三十四。滿社員也。現爲詩報編輯。去十二日。午前八時。有事至士林。造十一時頃歸宅。到其自宅附近池沼汰浴。該池乃爲等學校。建築用壜土之池。水深丈餘。周氏誤履深地。遂至沈沒。池邊有人。見其入水後。呑蹤惡。知係附近居人。因遍詢近隣人家。果有周氏入浴。因急報同地警官。到現場撈。於是計算里程。約水由。溺死一時。開廷。

孫及孫女各三歲
同時溺死庭前池中
夏季爲親者各宜注意

豐原街豐原製紙製材株式會社職工張阿癸。年三十二。當街字會子人也。自去年五月。入該會社製紙工場。爲卸解機職工。去十一日午前二時半。因不慎觸轉中之車索捲去。發見新盛橋大通。二軒餅店。且無設備防蝕。極不清潔。卸命改造。又其中一軒。川井水。且井戶。在便所逸出之水混淘。於是禁止使用。更命塞埋該井云。

豐原製紙
會社職工
被車索捲斃

豐原街豐原製紙製材株式會社職工張阿癸。年三十二。當街字會子人也。自去年五月。入該會社製紙工場。爲卸解機職工。去十一日午前二時半。因不慎觸轉中之車索捲去。發見新盛橋大通。二軒餅店。且無設備防蝕。極不清潔。卸命改造。又其中一軒。川井水。且井戶。在便所逸出之水混淘。於是禁止使用。更命塞埋該井云。

丸昌運送店員
拐帶巨金

員林郡田中庄田中丸昌運送店員陳耀色。年十九。去十二日午前九時頃。受主命提現金八百圓。到田中信用組合辦金。耀色即乘機將該金攜帶逃走。至午後二時。運送店。見其不歸。立報出于田中派出所。即時轉報員林郡。現正張。非常網。搜查犯人及四個月間。運送店。尚未發見。疑有教唆之人。在其背後欲帶往滿洲云。

竹州乙巡合格者

新竹州。者番發表。左記乙巡教習生十二名。訂十四日。交付採用辭令。翌十五日。入臺北警官練習所。顏柳枝。林禍滂。林余塗。葉双鱗。李錦昌。劉定石。陳清欽。鍾潤庭。李逐香。劉國昌。王春源。黃德權。

會社事業變遷

東石郡。去十三日午前九時。在郡役所。會議室開街庄產業技手。婦螺氏。孫郡昌才。年三十。及其孫女郎氏良。年同。去十一日午後六時頃。在自宅前庭。兩童遊戲中。不知何故。俱顛落於庭前池中。至六時半。被牧童發見。急呼家人總起。速救出。但兩人已呼吸絕。約一時間。終歸無效。當地警官。立臨檢。劉警部到場檢視後。即將屍體交付家人領回埋葬。聞者傷之。

人事

▲東京地方裁判所判事陳茂源氏。十二日便輪回臺。即日赴其赴任大溪。

▲臺北市大正町一丁目保正周永順氏胞兄病狀治中。去十二日午前十一時逝去。享年八十六歲。現在葬在望。彌留未定。

▲臺山郡五團王游泰氏之父王長春氏日前逝世。享年八十有三。訂來十四日正午。執行葬儀。

會事

▲武德會新竹支部馬術部。自十一日起。至十四日間。在南門馬術部競馬場。募集競馬希望者四十名。委託屆各街庄。選派有力部長。根井警視。併招本。富山田三警部爲講師。開馬術攻究會。

▲金島二二等郵便局。訂本十四日。午前八時起。在洛陽公園內廣場。舉野球決勝戰。

漢文　臺日案內　完

臺西　小兒科　內科　婦人科　皮膚科　臺北市太平町三丁目一八二五　大安醫院

臺灣日日新報
（原始創刊明治二十九年六月一日第一號發行）（明治四十五年一月一日改題）
本社　臺北市榮町一丁目一番地　電話一一一一番
臺中支局　臺中市錦町一丁目一番地　電話一一一一番
臺南支局　臺南市本町二丁目一番地　電話一一一一番
高雄支局　高雄市新濱町一番地　電話一一一一番
花蓮港支局　花蓮港街大字花蓮港字北濱一番地　電話一一一一番
臺東支局　臺東街大字臺東字新開園一番地　電話一一一一番
澎湖支局　馬公街大字馬公字東衛澳一番地　電話一一一一番
定價　一箇月金壹圓參拾錢　郵送料金貳圓四十錢
廣告料　一行金壹圓　社告一行金貳圓
社長　下村宏
編輯兼印刷人　野口米次郎
印刷所　臺北市榮町一丁目一番地　臺灣日日新報社
印刷人　野口米次郎
發行所　臺北市榮町一丁目一番地　臺灣日日新報社
發行人　下村宏
午後六時　午前十一時　夕刊　朝刊

●株式會社臺灣銀行（總行臺北）昭和七年八月六日附辭令左ノ通リ任ス　臺北地方法院新竹支部

米政府の大赤字切抜策
増税の非常手段が成功の基

一

昨今アメリカの株式、商品市場に強気な人気のブームが盛り上って来たことは、この人気の根源が何に因つてゐるかといふことは先のフーバーモラトリアムの一の報に係るのではないか、或は財界大恐慌のものであるかこのところ各方面の研究問題である。勿論今度のアメリカ財界の好転化、恐慌の根拠となつたものに米国財政の安定、大赤字財政切抜計の着実遂行あることを見逃がしてはならない。この点に関し米国の知名な株式の権威者として知られてゐるバーナード・バルーク氏が最近ニューヨークタイムス紙上に発表した論文の概要を紹介すると次の如くである。

二

米国政府の発表による一九三一年十二月末会計年度（米国は七月より翌年六月迄が一会計年度）の歳出総額は五十億六百万弗であつて之れに対する歳入総額は僅か二十一億二千百万弗に過ぎず、歳入不足額は二十八億八千五百万弗といふ世界財政史始まつての大赤字を出したのである。米国の財政当局がこの巨額すべき財政危機に際して如何なる方策を以てバランスを立てるかに重大なる関心を持つてゐるのは当然であるが、バルーク氏は増税等々、如何にこれを調整するかで、資産保有階級にこの問題の一つに終始したものである米国財政破綻の原因は不況に基因する諸税の激減と一部から税収の大宗をなす所得税の約半減税の四割減を始めとしフーバー・モラトリアムによる戦債元利支取金一億弗減等に対し歳出は例の復興金融会社への政府出資五億弗計上、農業救済費の二億弗増加其他不況対策として諸工事費支出を続んにしインフレーションを避けた結果である、而してこの結局赤字財政は大部分赤字公債の発行によつたのであるが、アリバー大統領は穴を塞ぐに新たな穴を掘つて塞ぐのでは何にもならぬ、即ち公債負担を以てしては財政はいつまでも財政の立直らぬことを痛感し大英断を以て増税を断行し増税による歳入の大幅増加を図つたものであるがこれら増税及新税により十一億二千八百五十万弗の増収を目論んだ、而もそれで尚ほ一千四百五十万弗の剰余を見込んでゐる、新年度予算を立ててゐるが、新年度予算には社会保険費打切増税による歳入の増加を期待してゐるが、バルーク氏は之れを断然排斥し増税によつてのみ立てた所に社会を挙げて緊縮があると思ふ、即ち一九三一三三年度米国政府予算によると歳入所得税一、二六六百万弗、関税四三、五〇百万弗、内国税一、二〇三百万弗、雑収受取二、七〇〇百万弗、其他二三八百万弗、計三二、三五〇万弗（歳出）国防費六七、七〇百万弗、退役士給恩九八三百万弗、利払一、一九一百万弗、行政費五〇八百万弗、計二、一九二百万弗、故国の経済に悪影響なき節約と緊縮財政の断行に比べ、吾人は其の度胸なる対照に深く自国の為を如何といふ感しがたい。

拓務省、農林省案の臺鮮米の買上に同意
然し朝鮮米の切離しを希望
問題解決までは曲折を見ん

【東京十三日發電通】拓務省は農林省提案の朝鮮臺灣米移入調節案審議の為め十三日正午官邸で左の如く説明後二時より拓相官邸に省議を開いた結果臺鮮米買上には同意することゝして朝鮮米の内地移入調節に就き適當な方法を執るべしとの農林省の希望に就ては考慮すべきものとし農林省の再考を求めるに決し、北島殖産局長は午後四時農林省に長瀬米穀部長を訪ひこの決定を通告した農林省側は米穀の移入問題を不可分と見てゐるから問題の解決までには尚相當の曲折を見るものと言はれてゐる

滿洲國の承認問題は
聯盟には左右されない
齋藤首相十二日官邸で語る
ちよつと安心の態

【東京十三日發電通】齋藤首相は十三日正午官邸で左の如く語る

滿洲國承認問題は昨日安達官から報告に来訪するやう電報されたから直ちに来訪したが外務省に一任し且つ外務省で準備中である、國策が完全に出来上つてくるを待つて之を實行するのが當然の順序であり、又聯盟との関係上自ら然るべき時期があるであらう、聯盟は日本の聯盟脱退の可能性に注意してゐたが、十二月長岡、佐藤、牟田三氏が聯會の日本代表に任命されたと聞いてちよつと安心の形だ、然し聯盟を脱退するせぬとの問題は依然として聯盟自ら決すべきもので我々は聯盟を脱退する意志は毛頭ない、聯盟は日本の政策に対し勧告を為すに過ぎないから聯盟脱退の問題は起らないと思ふ

【ゼネバ十二日發電通】聯盟首相は十三日正午官邸で左の如く語る

滿洲國承認問題は昨日安達官から報告に来訪するやう電報されたから直ちに来訪したが外務省に一任し且つ外務省で準備中である、國策が完全に出来上つてくるを待つて之を實行するのが當然の順序であり、又聯盟との関係上自ら然るべき時期があるであらう、聯盟は日本の聯盟脱退の可能性に注意してゐたが、十二月長岡、佐藤、牟田三氏が聯會の日本代表に任命されたと聞いてちよつと安心の形だ、然し聯盟を脱退するせぬとの問題は依然として聯盟自ら決すべきもので我々は聯盟を脱退する意志は毛頭ない、聯盟は日本の政策に対し勧告を為すに過ぎないから聯盟脱退の問題は起らないと思ふ

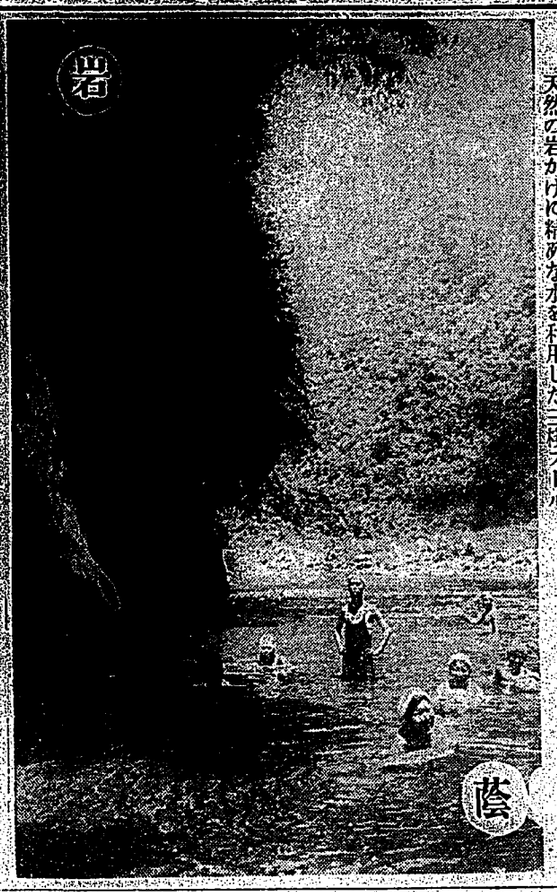
日本は脱退か
聯盟に一樣の觀測
日本代表の任命で
ちよつと安心の態

【東京十三日發電通】聯盟首相は十三日正午官邸で左の如く語る

滿洲國承認問題は昨日安達官から報告に来訪するやう電報されたから直ちに来訪したが外務省に一任し且つ外務省で準備中である、國策が完全に出来上つてくるを待つて之を實行するのが當然の順序であり、又聯盟との関係上自ら然るべき時期があるであらう、聯盟は日本の聯盟脱退の可能性に注意してゐたが、十二月長岡、佐藤、牟田三氏が聯會の日本代表に任命されたと聞いてちよつと安心の形だ、然し聯盟を脱退するせぬとの問題は依然として聯盟自ら決すべきもので我々は聯盟を脱退する意志は毛頭ない、聯盟は日本の政策に対し勧告を為すに過ぎないから聯盟脱退の問題は起らないと思ふ

實業大會決議を
總督、長官に陳情
實行委員八氏が訪問

【東京十三日發電通】實業大會實行委員會は十三日午後三時より官邸に於て同會長代表中川、後藤、三浦の三氏並に委員代表菊池、園田、高橋代表古賀氏、花岡、藤原、柳代表、富樫小西、岡部の諸氏會議八名は十三日午前十一時頃



天然の岩かげに綺麗な水を利用した三機プール

海洋横斷の八六二號機 學甲附近で不時著

顚覆したが搭乘者は無事

僚機二機は屏東へ引返す

【馬公特電十三日發至急報】屏東馬公間飛行は午前十時半屏東を出發したとの報に接し馬公著陸場は觀衆詰かけ飛行機の到來を待つたが午前十一時四十分に至り八六二號（森田軍曹搭乘）は鹽水港の西南十五基學甲において不時著顚覆、森田軍曹は異狀なしとの通報を受け一同驚愕慮慮してゐる、僚機倉持中尉、奥田軍曹搭乘の二機は屏東に引返したと

破損はプロペラだけ

原因は機關部の故障か

【臺南電話】十三日午前十時半屏東を出發して馬公へ向つた馬公間飛行郵便機第八六二號機は十三日午前十一時二十分頃臺南州曾文郡學甲庄上空を通過中に不時著顚覆した、報告によれば同機は小型單發機で乘員二名を引連れて現場に

急行

したが幸ひ搭乘者森田軍曹には何等負傷なく無事、機體もプロペラの先端を少し折損した外殆ど破損なく不幸中の幸ひと關係當局では語つてゐる、原因は機關の故障らしく目下調査中であるが、プロペラ取替へにより五日中に飛び出來得るものと云はれてゐる、尚機體は屏東へ引返した、

【屏東電話】十三日午前十時半屏東飛行場發馬公行郵便機第八六二號機は十三日午前十一時二十分頃臺南州曾文郡學甲庄上空を通過中に不時著顚覆した、報告によれば同機は小型單發機で乘員二名を引連れて現場に急行したが幸ひ搭乘者森田軍曹には何等負傷なく無事、機體もプロペラの先端を少し折損した外殆ど破損なく不幸中の幸ひと關係當局では語つてゐる、原因は機關の故障らしく目下調査中であるが、プロペラ取替へにより五日中に飛び出來得るものと云はれてゐる、尚機體は屏東へ引返した、

【屏東電話】昨日午前十時半屏東飛行場發馬公行郵便機第八六二號機の馬公往復飛行第二日目は十三日行はれた、午前十時半屏東飛行場發、森田、福田兩軍曹搭乘の所同機は三機編隊で出發したが途中十一時過森田軍曹の搭乘機は臺南州曾文郡學甲庄の上空に差掛つた頃機關に不時故障を來したので他の二機は儘に不時著したので他の二機は儘に不時故障のため引返した、その儘に長しに驚かされてゐる、原因は機關の故障らしく目下調査中であるが、プロペラ取替へにより五日中に飛び出來得るものと云はれてゐる、尚機體は屏東へ引返した、

三機無事歸著

第二日目終る

【屏東電話】昨日午前十時半屏東飛行場發馬公行郵便機第八六二號機の馬公往復飛行第二日目は十三日行はれた、午前十時半屏東飛行場發、森田、福田兩軍曹搭乘の所同機は三機編隊で出發したが途中十一時過森田軍曹の搭乘機は臺南州曾文郡學甲庄の上空に差掛つた頃機關に不時故障を來したので他の二機は儘に不時著したので他の二機は儘に不時故障のため引返した、その儘に長しに驚かされてゐる、原因は機關の故障らしく目下調査中であるが、プロペラ取替へにより五日中に飛び出來得るものと云はれてゐる、尚機體は屏東へ引返した、

軍醫派遣

【屏東電話】昨日午前十時半屏東飛行場發馬公行郵便機第八六二號機の馬公往復飛行第二日目は十三日行はれた、午前十時半屏東飛行場發、森田、福田兩軍曹搭乘の所同機は三機編隊で出發したが途中十一時過森田軍曹の搭乘機は臺南州曾文郡學甲庄の上空に差掛つた頃機關に不時故障を來したので他の二機は儘に不時著したので他の二機は儘に不時故障のため引返した、その儘に長しに驚かされてゐる、原因は機關の故障らしく目下調査中であるが、プロペラ取替へにより五日中に飛び出來得るものと云はれてゐる、尚機體は屏東へ引返した、

屏東聯隊から

軍醫派遣

【屏東電話】昨日午前十時半屏東飛行場發馬公行郵便機第八六二號機の馬公往復飛行第二日目は十三日行はれた、午前十時半屏東飛行場發、森田、福田兩軍曹搭乘の所同機は三機編隊で出發したが途中十一時過森田軍曹の搭乘機は臺南州曾文郡學甲庄の上空に差掛つた頃機關に不時故障を來したので他の二機は儘に不時著したので他の二機は儘に不時故障のため引返した、その儘に長しに驚かされてゐる、原因は機關の故障らしく目下調査中であるが、プロペラ取替へにより五日中に飛び出來得るものと云はれてゐる、尚機體は屏東へ引返した、

野球振興の座談會開催

十二日夜臺中公會堂で

十二日夜臺中市民館に於ける野球振興座談會は當日の觀衆野球部長、上岡、吉澤、板垣其他臺中スポーツ後援會の幹事諸氏二十餘名、八時二十分頃氏から臺中に於ける野球振興に付て如何なる方法が講ずべきかについて種々の有る所を座談なく承りて散會した

【臺中電話】十二日夜臺中市民館に於ける野球振興座談會は當日の觀衆野球部長、上岡、吉澤、板垣其他臺中スポーツ後援會の幹事諸氏二十餘名、八時二十分頃氏から臺中に於ける野球振興に付て如何なる方法が講ずべきかについて種々の有る所を座談なく承りて散會した

と挨拶あり吉澤氏

臺中の野球振興を圖るには優秀なチームの組織が必要である、これに鑑いて臺中には現にスポーツ後援會が在るが、この後援會は、野球振興の後援を爲すのが主の主なる目的かゝ又は會員外のインターをも歡迎する者で會員に限ぎるから殊には本年度の發するダイタースカードの發行を望むものでダイタースフォーは日華及滿日臺二回、平日一回をも設定した、大體以上の如くであつて十一日夜會合から島内及内地に向け入會勸誘狀百通を發送したが之に依り冬季内地發の誘出に對する像り多數の申込を期待され來月初中には供給部

臺南一、二中で チーム編成

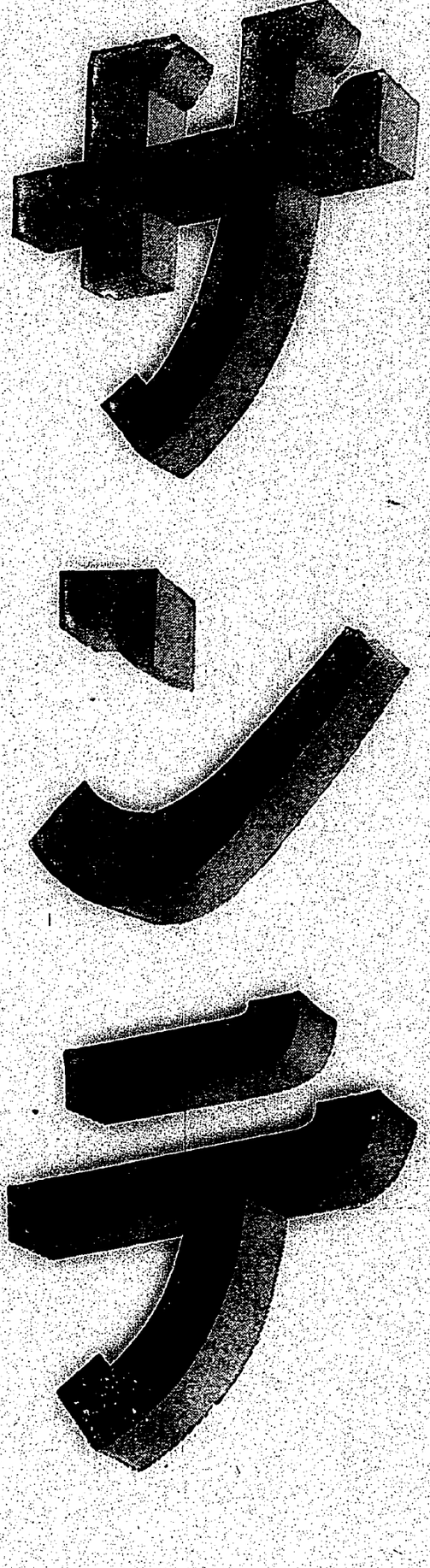
高松軍を迎へて一戰せん

【臺南電話】臺南市にある各校商業チーム木島各校合同にて臺南市代表チームが結成されたが之に對し同市第一中學校チームが高松軍を迎へて一戰を交ふる事となつた、同軍は十三日午後一時臺南驛着、直ちに同校グラウンドに於て練習を行ひ夜は同校講堂に於て歡迎會を開く筈、尚同軍は十四日午後一時臺南驛發、同日夜臺中着、十五日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十六日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十七日午後一時基隆發、同夜臺北着、十八日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十九日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十二日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十三日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十四日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十五日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十六日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十七日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十八日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十九日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、三十日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、三十一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、九月一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二日午後一時基隆發、同夜臺北着、三日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、四日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、五日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、六日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、七日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、八日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、九日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十日午後一時基隆發、同夜臺北着、十一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十二日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十三日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十四日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十五日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十六日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十七日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十八日午後一時基隆發、同夜臺北着、十九日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十二日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十三日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十四日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十五日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十六日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十七日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十八日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十九日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、三十日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、三十一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、九月一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、三日午後一時基隆發、同夜臺北着、四日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、五日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、六日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、七日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、八日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、九日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十一日午後一時基隆發、同夜臺北着、十二日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十三日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十四日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十五日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十六日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十七日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十八日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十九日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十二日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十三日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十四日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十五日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十六日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十七日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十八日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十九日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、三十日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、三十一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、九月一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、三日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、四日午後一時基隆發、同夜臺北着、五日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、六日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、七日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、八日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、九日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十二日午後一時基隆發、同夜臺北着、十三日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十四日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十五日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十六日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十七日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十八日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十九日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十二日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十三日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十四日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十五日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十六日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十七日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十八日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十九日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、三十日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、三十一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、九月一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、三日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、四日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、五日午後一時基隆發、同夜臺北着、六日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、七日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、八日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、九日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十二日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十三日午後一時基隆發、同夜臺北着、十四日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十五日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十六日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十七日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十八日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十九日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十一日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十二日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十三日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十四日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十五日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十六日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十七日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十八日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十九日午後一時基隆發、同夜臺北着、三十日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、三十一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、九月一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、三日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、四日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、五日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、六日午後一時基隆發、同夜臺北着、七日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、八日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、九日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十二日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十三日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十四日午後一時基隆發、同夜臺北着、十五日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十六日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十七日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十八日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十九日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十二日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十三日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十四日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十五日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十六日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十七日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十八日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十九日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、三十日午後一時基隆發、同夜臺北着、三十一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、九月一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、三日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、四日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、五日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、六日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、七日午後一時基隆發、同夜臺北着、八日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、九日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十二日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十三日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十四日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十五日午後一時基隆發、同夜臺北着、十六日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十七日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十八日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十九日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十二日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十三日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十四日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十五日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十六日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十七日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十八日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十九日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、三十日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、三十一日午後一時基隆發、同夜臺北着、九月一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、三日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、四日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、五日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、六日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、七日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、八日午後一時基隆發、同夜臺北着、九日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十二日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十三日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十四日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十五日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十六日午後一時基隆發、同夜臺北着、十七日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十八日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十九日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十二日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十三日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十四日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十五日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十六日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十七日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十八日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十九日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、三十日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、三十一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、九月一日午後一時基隆發、同夜臺北着、二日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、三日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、四日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、五日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、六日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、七日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、八日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、九日午後一時基隆發、同夜臺北着、十日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十二日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十三日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十四日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十五日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十六日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十七日午後一時基隆發、同夜臺北着、十八日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十九日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十二日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十三日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十四日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十五日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十六日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十七日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十八日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十九日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、三十日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、三十一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、九月一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二日午後一時基隆發、同夜臺北着、三日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、四日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、五日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、六日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、七日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、八日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、九日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十日午後一時基隆發、同夜臺北着、十一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十二日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十三日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十四日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十五日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十六日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十七日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十八日午後一時基隆發、同夜臺北着、十九日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十二日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十三日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十四日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十五日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十六日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十七日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十八日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十九日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、三十日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、三十一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、九月一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、三日午後一時基隆發、同夜臺北着、四日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、五日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、六日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、七日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、八日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、九日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十一日午後一時基隆發、同夜臺北着、十二日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十三日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十四日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十五日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十六日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十七日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十八日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十九日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十二日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十三日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十四日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十五日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十六日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十七日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十八日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十九日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、三十日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、三十一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、九月一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、三日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、四日午後一時基隆發、同夜臺北着、五日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、六日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、七日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、八日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、九日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十二日午後一時基隆發、同夜臺北着、十三日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十四日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十五日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十六日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十七日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十八日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十九日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十二日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十三日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十四日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十五日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十六日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十七日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十八日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十九日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、三十日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、三十一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、九月一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、三日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、四日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、五日午後一時基隆發、同夜臺北着、六日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、七日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、八日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、九日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十二日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十三日午後一時基隆發、同夜臺北着、十四日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十五日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十六日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十七日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十八日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十九日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十一日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十二日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十三日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十四日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十五日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十六日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十七日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十八日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十九日午後一時基隆發、同夜臺北着、三十日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、三十一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、九月一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、三日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、四日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、五日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、六日午後一時基隆發、同夜臺北着、七日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、八日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、九日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十二日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十三日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十四日午後一時基隆發、同夜臺北着、十五日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十六日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十七日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十八日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十九日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十二日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十三日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十四日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十五日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十六日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十七日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十八日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十九日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、三十日午後一時基隆發、同夜臺北着、三十一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、九月一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、三日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、四日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、五日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、六日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、七日午後一時基隆發、同夜臺北着、八日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、九日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十二日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十三日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十四日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十五日午後一時基隆發、同夜臺北着、十六日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十七日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十八日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十九日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十二日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十三日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十四日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十五日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十六日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十七日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十八日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十九日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、三十日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、三十一日午後一時基隆發、同夜臺北着、九月一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、三日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、四日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、五日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、六日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、七日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、八日午後一時基隆發、同夜臺北着、九日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十二日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十三日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十四日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十五日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十六日午後一時基隆發、同夜臺北着、十七日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十八日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十九日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十二日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十三日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十四日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十五日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十六日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十七日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十八日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十九日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、三十日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、三十一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、九月一日午後一時基隆發、同夜臺北着、二日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、三日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、四日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、五日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、六日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、七日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、八日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、九日午後一時基隆發、同夜臺北着、十日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十二日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十三日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十四日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十五日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十六日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十七日午後一時基隆發、同夜臺北着、十八日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十九日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十二日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十三日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十四日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十五日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十六日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十七日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十八日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十九日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、三十日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、三十一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、九月一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二日午後一時基隆發、同夜臺北着、三日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、四日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、五日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、六日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、七日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、八日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、九日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十日午後一時基隆發、同夜臺北着、十一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十二日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十三日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十四日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十五日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十六日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十七日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十八日午後一時基隆發、同夜臺北着、十九日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十一日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十二日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十三日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十四日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十五日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十六日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十七日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十八日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十九日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、三十日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、三十一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、九月一日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、三日午後一時基隆發、同夜臺北着、四日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、五日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、六日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、七日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、八日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、九日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十一日午後一時基隆發、同夜臺北着、十二日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十三日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十四日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十五日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十六日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十七日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十八日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十九日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十一日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十二日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十三日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十四日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十五日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十六日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十七日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十八日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十九日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、三十日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、三十一日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、九月一日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、三日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、四日午後一時基隆發、同夜臺北着、五日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、六日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、七日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、八日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、九日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十一日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、十二日午後一時基隆發、同夜臺北着、十三日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、十四日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、十五日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、十六日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、十七日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、十八日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、十九日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十一日午後一時臺北驛發、同夜臺中着、二十二日午後一時臺中驛發、同夜臺南着、二十三日午後一時臺南驛發、同夜高雄着、二十四日午後一時高雄驛發、同夜臺南着、二十五日午後一時臺南驛發、同夜臺中着、二十六日午後一時臺中驛發、同夜臺北着、二十七日午後一時臺北驛發、同夜基隆着、二十八日午後一時基隆發、同夜臺北着、二十九日午後一時臺北驛發、同夜

SANTE

肺結核の画期的治療薬

臨床大家六十餘博士　實驗推奨
官公私立大病院療養所　御採用



結核は不治に非ず、治すに道あり

「結核は不治なり」とは云ひ古されたる言葉であるが、醫學の進歩しない時代のその觀念が今に於てなほ相當有力に人々の腦裡に存して、近代的教育を受けた若い人々の間に於てさへ、漠然と然し可なり根強く印象付けられてゐる事は實は慨はしい事である。

この不可解なる理由なき觀念が、どれほど結核治療上の障害になつてゐるか知れない。結核病即ち死の宣告であるかの如き誤まれる觀念に支配されて、治るべき肺病を惜しげもなく諦めて自棄自楽に陥る人の如何に多き事か——

結核は斷じて不治では無い。寧ろ或る條件の下に於て最も治し易き病である。

その條件とは何か？

即ち「殺菌と排毒」これである。

然るに、世に行はれてゐる結核藥は多くはこの根本的條件を忘れて仕舞つてゐる。專ら結核毒素の中毒作用として現はれ來る發熱、盜汗、血痰、咳嗽、食思不振、頭痛、心悸亢進、下痢等の表面的症狀に對してのみ之を沈靜せんと力を注いでゐるに過ぎない樣に思はれる。

これでは、百年河清を待つが如く、たとへ一時的に症候が消退しても、病菌に對する根本的處置をおろそかにしてゐる限り何時まで待つても病氣そのものゝ治癒は望まれない道理で、その治療は「邪道を走れる結核治療」と云はねばならないのである。

邪道を走る治療に依つて病の轉歸を誤まつても、それは藥の罪では無い——結核藥に就ての認識が足らず、正道と邪道との區別に徹底を缺き、疫病方針の確立を誤まつた人の當然の運命である。

若し、その悲しむべき運命に陥つた人があるとすれば、吾人はその人に同情の涙を濺ぐ前に、「治療は必ず正道に立歸れ、今日唯今からでも決して遲くはない」と切に勸告したいと思ふ。

「サンテ」は飽くまで「殺菌と排毒」の學理に立脚して結核治療の正道をまつしぐらに直進する革命兒である。

發賣して日は淺いが、山間の古沼の如く沈滯せる結核治療界に潑溂たる生氣を與へ回春の光明を投げたる功は、蓋し沒すべからざるもので、實驗的にその根本治療藥たる事が續續證明せられつゝある事は、「サンテ」の價値に千鈞の重みを加ふるものである。

現に臨床大家六十餘博士から實驗推奨を蒙つてゐるが、短日月に斯くも多數の權威者から推奨を受けた事は結核藥の歷史に未だ曾て無い事である。

東京帝大、入澤達吉博士の主宰せられる實地醫家の機關誌「實驗醫報」四月號誌上にも、內野淺次郎博士によつて「サンテ」の効驗が報告せられ「超越せる卓効を有する理想的新藥にして從來の他藥の追隨し得ざるもの」と記載せられたる如き、如何に「サンテ」が治療界に於て歡迎せられつゝあるかを窺知するに足るのである。

「サンテ」の効果の手近な證明は、實驗せられた各博士の報告書に見る事が出來る。

——食慾大いに增進し、健康時と同量の食餌を攝るに至る

——發熱去り、平溫となる

——ねあせ止み、夜間安眠する事を得

——咳嗽鎭まり、血痰止み、呼吸輕快す

——胸痛去り、頭痛、全身倦怠を感せず

——肩こり、全身異和感去り、元氣振起す

——ラッセル消失し、下痢頓挫す

斯くの如き著明な症狀の滅退が、「サンテ」の服用後、早きは四五日おそくも一週間目頃からメキ〳〵と現はれ來る事歷々であつて、患者の氣分は、不快なる症狀の日增しに消失し行くに從ひ、益々明るく輕快となり、體重も增加し、歩一歩全快への堅實な歩みを進めて行くので各博士とも非常な喜びを以てその結果を報告せられてゐる。

單なる症狀の鎭靜劑であつてもこの樣に速かに安全に奏效を見るのは稀である。まして、僅かに一劑にて、斯くも多數の症狀を一擧にして消失せしめ得るのは、即ち「サンテ」が、病の本源を爲す病竈に直ぐ樣作用して忽ち殺菌排毒の效果を現はす獨特の藥劑なればこそであつて、斯くてこそ始めて本當の治癒がそこに期待出來得るのである。

なほ、本劑が、服用極めて容易安全であつて、過敏性の婦人や小兒も喜んで之を服用し得る事、又少しも副作用習慣作用なく安心して持長せしめ得る事、及び、本劑のほかに下熱劑や其他の症狀鎭靜劑を併用する必要は更になく（併用する事は妨げなけれどもその必要なし）唯一劑のみにて十分各種の効果を同時に現はす故、從つて頗る經濟的なる事など、各博士の一致して推奨せられる所である。

結核治療に發賣期始の必要なるはもとより論を俟たざる所であるが、何等なる發賣期、發賣なる發賣品が必ずしも良良の發賣を期するものではない。又、何程巧みに造られてあつても、結局人工發賣品は天然品の發賣には及ばないものである。されこれと發賣期とを併用して初めて、而して天然品に代りて社會病理上責任の益々重大なるに鑑み、一層の發賣なる注意の下に、何でも好きなものをうまく食ふといふ樣な放漫の發賣を愼しめて

臺銀の株主配當
復活確定の見込
結局年四分が認められるだらう

支店は元より内地、海外支店の如きも順調な成績を挙げた、有價證券の値上り、諸預金、諸貸出等で個期、個々期等に比し内容は好轉してゐる、從つてバランスに表れる利益額も個期より多く年五分から六分の配當は個年の見込次第ではやつても何ら無理はない成績だと思ふ云々と多くを語らないが配當の如きや

臺銀定時總會は九月一日東京支店で開催される筈、豫定したが、利益金處分案に關して大藏當局の認可待だが、關係者の氣を揉ましてゐる

問題の

今期配當率は銀行側は今期の業績から、又十期以上に殖す無配當の憂目を見せた株主への立場からも今期は是非配當の復活を期すべく配當案を以て大藏當局に極力折衝中で、若し當局の容れる所となれば十期ぶりの配當復活となつてゐるが、一方當局への入電前記によると認めるにしても三分までとし頑強に反對してゐた大藏當局も漸次折れて來たらしく、株式市場の臺銀

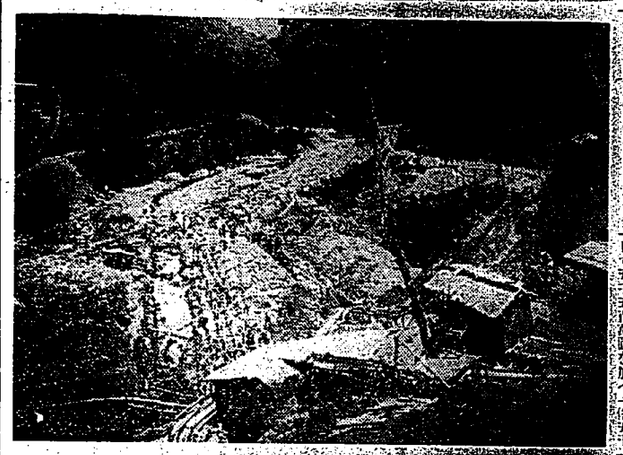
相場が

關係四十九圓二十錢新三十圓八十錢所に戻したのは利益配當から配當區別の相場を現はしたものでも、四分配當說も相當有力視されてゐる

X

右につき臺銀當局筋では次の如く語る

今上期業績は財界不況ながら大きな減益がなかつたので昨年下期と同程度の利益は擧げ得る見込みである、從つて配當は今期も年四分を維持し得る見込みである、尤も株主に對しては配當の復活を期待させる意味から四分五厘乃至五分の配當を行ふ事も考へられるが、これは今後の業績如何に關する問題であつて、現在の處では未だ何とも言へない



日月潭水電工事畫報……（上）頭社堰堤心壁掘鑿工事（中）水社係水路隧道下口（下）門牌潭鎖管路上より社宅を望む

臺銀株昂騰
四分配當内定に

臺銀の上期配當は低率の如く大藏省當局の三分主張に對し臺銀當局は四分配當を實行する意向のそうであるが十三日成節への入電による四分に内定した模様である關係銀行は一時五分配說が傳はりたる當時關係五十一四五十錢迄買氣したが其後配當の有無が疑問視され翌後、七十五圓挑込)せん關位に下落して居たが愈々配當復活確實となり四分乃至三分配當說濃化したので現株四十九圓二十錢、新株三十四八十錢と一圓二十錢方引續つた、兎に角十期以

酒造米
購買入札
三井に落つ

續發前場當局では十三日午前十時酒造用作米臺米の購買入札を執行

植民地米は
農林省で買上げか
結局鮮米買上げの方が
主たる目標とならう

内地米

買上金一億圓增

植民地米買上資金を以て五千五百萬圓を加へ二億五千

東電による農林省では愈々植民地米管理案を來る臨時閣會に提出

電力株は安い
爲替差損と料金値下問題が祟る

爲替地力株は外債の元利拂に對する爲替差損と料金値下問題が祟つて頗る軟調裡に推移二十日前場が僅か十五圓、新株二十五圓捲込七九錢と一時の高値より九圓下落してゐる、上期の配當は六分據置に内定し居るも次期以後は減配か無配かの懸念で安くなつてゐるといふ事場人氣は同株の買進を沮喪せしめ配當

電力總會で
監事の改選
梶原氏の任期滿了

(兜交通局總裁)の呼聲ありしも遞信總裁は林博太郎氏が一任したので梶原氏が引續き監事に重任しても差支へはないのであるが松木社長としては別に容認し居るもの如く關係の改選は同社長の一存にあるものとみられてゐる

新竹金融

新竹商銀行に於ける八月六日現在の營業週報左の如し

	當期	同期	前年同期
預金	一、三五六、一三五	一、三五六、一三五	一、三五六、一三五
貸出	七、〇五七、七〇三	七、〇三一、三五六	六、三五六、一三五
金銀在品	一、三五六、一三五	一、三五六、一三五	一、三五六、一三五

水害を受けた
王爺港鹽田
廢止論が出たが復活に決す

臺南州北門郡の鹽田は昨年の暴風雨の際海水の侵入により大被害を受け全く使用に堪へず、從つて收穫皆無となつたので、專賣局では臨時費の支出を避けるため當分の間鹽田の復舊を中止し、其の間に於ける鹽業の將來に對する調査をなしつゝあるが、この調査の結果に基き鹽業改革を講ずる方針で、當局としては同鹽田の

嘉義、新竹
電燈合併に就て
松橋重役語る

新竹に本社を有する會社としては新竹電燈と嘉義電燈のものであるが、嘉義電燈は既に設備も完成し、從つて新竹電燈と嘉義電燈が合併されるとなると新竹市には一の會社もなくなる譯である、同社と民間の有力者數名が協議の結果、新竹市の發電力不足に應じ電燈電力開發の爲先づ手始めとして新竹、七十五圓挑込)せん關位に下落して居たが愈々配當復活確實となり四分乃至三分配當說濃化したので現株四十九圓二十錢、新株三十四八十錢と一圓二十錢方引續つた、兎に角十期以

新竹電燈は竹東郡上坪に一千二百キロの水力發電所を建設し電燈電力用の動力に低廉な電氣を供給し工業の進歩を計らうと

殖民地米は
農林省で買上げか
結局鮮米買上げの方が
主たる目標とならう

内地米

買上金一億圓增

植民地米買上資金を以て五千五百萬圓を加へ二億五千

東電による農林省では愈々植民地米管理案を來る臨時閣會に提出

臺北州農會主催
篤農家製茶講習會
十三日實習授與式擧行

臺北州農會主催の篤農家製茶講習會は去る十日から新莊郡林口庄茶業傳習所に於て開催中であつたが十三日を以て實習程に終了したので、實習出席者は六十一名で前半は新莊區篤農者の講習を聽取し十一日の午後二時から一名が生葉十斤づつを開始した、何しろ茶期下葉地代表者の對抗競爭であるのでとて熱心なものあり十三日午前十一時から後援興式を擧行、長官新莊郡守其他街庄長らも出席、一時過ぎ散會したが審査の結果は左の通り

▲特等　葉鯉郡七張庄陳天錫、七星郡內湖庄劉阿榮、同郡水梘頭庄何金木、文山郡新店庄吳鴻、七星郡水梘頭庄何金木、文山郡新店庄吳鴻、七星郡水梘頭庄何金木、文山郡新店庄吳鴻、七星

ラヂオ欄

今日の番組
J.F.A.K 八月十四日(日)

午前の部
【八・〇〇】全國一齊放送(實況)(東京)
△今日のお天氣のお知らせ(臺北のみ)臺北測候所發表△臺北市內の今日の家庭料理獻立△レコードの時間(ハムレットの獨白はんべんの舞臺面入)(蓄音機)(野球・大阪甲子園より中繼)
【十一・〇〇】オリムピック(ニュース及特別番組・本島NBCロサンゼルス放送局より中繼)
【一二・五九】正午の時報△氣象通報(臺北のみ)臺北測候所發表

午後の部
【〇・二〇】蓄音機樂(管絃樂)(レコード)(東京)△講演(農業)(東京)△講演(家庭)(東京)△講演(家庭)(東京)△講演(家庭

水上競技——けふ愈々最後の幕

更に二つのタイトルを奪ひ日本の世界制覇を唱はん

高松商業——北一中と對戰

實力は正に五分と五分

午後一時半圓山球場で

榮冠を得て

各選手は語る

水上競技各國得點表

高松商業北一中と引分

小倉工惜敗

和歌山中學勝つ

神戸にあがつて四日、否、四晩居る

マドロス君の性の節生？

内臺航路の裏を覗く(4)

職業戰線潛行記（二）

A記者

浴室の事から鍵で妻を殺す

檢察官懲役十三年求刑

きのふ第一回公判

死體追跡

海上グロ談

各務原で陸軍機が空中で正面衝突

搭乘二軍曹は即死

高崎の花柳街で深夜の血闘

市長候補問題から

拳銃、日本刀を持ち出して

絶頂近くまで既に征服

登攀隊一行

三人組怪盜

一名たけ逮捕

被害二千餘圓

埠頭を荒らず

新鋭潛水艦（伊號六十七）

臺灣に來航

航續試驗の爲めに

高松商業—北一中と對戰

實力は正に五分と五分

午後一時半圓山球場で

榮冠を得て

各選手は語る

水上競技各國得點表

漢文 臺灣日日新報 臺灣日日新報 第一萬一千六百二十號

滿洲國之承認 如有完全用意 則以獨自意見行之

十三日東京電。齋藤首相。十三日正午。在官邸語左。滿洲國承認問題。昨日安達特使從速承認。余即報告於同日閣議。一任外務省。日下外務省準備中。國家完全成立。然後承認。乃屬當然。而準備未成。於不日意之中。如承認之。則國與國對立時。易起問題。不可不俟完全成立。不然恐後來難問題發生。武藤大使。若到滿洲。當即承認。此意川越勉過於穿鑿。有說九月聯盟總會無承認者。然與聯盟無關係。我國當依獨自見解行之。不受聯盟所左右。來議會之答辯。與前議會無異。

日本脫退聯盟與否 聯盟兩樣觀測

十二日滿府電。伴武顧以下局盟調查團。與內田外相最終會見。意見相當隔閡。聯盟方面。注意日本聯盟脫退可能性。十二日長岡佐藤矢田三氏。聞任命爲總會之日本代表。始得安心。然脫退與不脫退。此觀測依然對立。前者置重於日本政情輿論。後者唯聯盟規約解釋論。脫退正式通告後。二年間被規約拘束。如脫退則日本須放棄南洋委任統治。而日本固不欲也云々。

有吉公使與首相要談

十三日東京電。駐華公使有吉明氏。十三日午前九時。訪齋藤首相。敘新任之謁。要談二十分鐘去。公使因矢野代理公使已都上海。故不急於履新。更與齋藤首相協議後。按來月初赴任。

陸軍機二臺空中衝突 大破即死

十三日午前十時十分頃。各務原飛行第一聯隊第二中隊附航空兵軍曹鈴木重利（二五）。操縱甲式四型戰鬪機（八百五號。與同隊附航空兵曹石川才二（二六）。所操縱甲式四型戰鬪機八百十二號。在各務原上空戰鬪訓練中。突中正面衝突兩機大破。墜落于稻葉郡豐原村附中。兩軍曹即死。

市長候補問題 各執刀銃數十名械鬪

十三日高崎電。高崎市長選舉前。衆各市長候補。相持不下。同市會議員砂永長吉派下。與同市請地町武山愛作派羽約三十名。十二日午前二時半頃。在同市花柳街中心地下衝突。雙方以拳銃日本刀等大亂鬪。高崎署長以下整它三十餘名急行。銃聲雙方押收日本刀十六支拳銃二挺拘雙方關係者三十名。又

嘉南大圳水害復舊工事費 借入磋商

今回中南部豪雨。嘉南大圳。水路破壞。及防水堤決潰。被害雖輕。現詳細調查中。順談大圳。本年豫算。工事費極端節約。故今回無經費可以支出。雖于復舊。一面爲給水關係。宜速修繕。今川管理者。現視罹災地方。待通行人一人中 流彈斃統。生命危篤。

美棉反落

十二日 紐育電。連盛之美棉市場。僅期反落。買力雖極力防戰。迄無效果。落郎貨一四七十錢。

奮起湖獻穀田 舉拔穗祭

嘉南州 獻穀圃。選在嘉義郡奮起湖石棹。去十一日午前十一時半。舉拔穗祭。有安武文教局長。今川嘉南州知事官房。教育課長。四郡勸業課長。土居殖務課長。三宅。三浦。押見三技師。洛口嘉郡守。總督府。

全島米穀商組合 開聯合役員會

向總督交通局總長提陳情書 對船會社提抗議書

全島五州 米穀商同業組合。因辰馬。郵。商三船會社協定。移出米積載。運賃起慣。去四月初。開于嘉義市。當時所決議案件。用文書提出于督府。或述議或請願。去十二日午前十時。在嘉北州米穀商同業組合事務所。開聯合役員會。出席者。嘉北州黃組長。黃理事。加納主事。新竹州黃組長。潘理事。陳米庫組合長。嘉中州吳組合理事。說明開於三項會社。移出米積載運賃起慣。辰馬汽船侵入兩及侵入後之現行賃率。與新時米慣之指改對比。起慣極缺公當之理由。次依參會者希望爲參考。請林移出米商組合理事列席。受其說明米商組合。與船會社交涉之經過。討論之後。由吳嘉中州組長。提議作製陳情書。向總督。交通局總長提出。對船會社。則以一。島內各港抗出。內地各港起水。運賃一率。每袋百斤。低降二十錢。二。準包與麻袋同率。三。實行期。十一月一日。等抗議書。求其至八月末日回答。若不應時。爲最後手段。在各地。開三船會社社員大會。總督府列席。時往上 陳情。支出此全部。負擔。散會。

全島教育課長會議 訂來十七日開於督府

督府主開各州教育。長及總督府事務課長會議。訂來十七日午前九時起。開于督府會議室。該開議之諸問。就商諸事如下。諸問事項一。臨本島現狀。二。對學校教育上。特設當惡事項。二。國語及獎勵上最適當具體方策。就商事項。一。開無格社大祭時幣品供進之件。二。配置師範學校卒業生件。三。實業卒校及實業補習學校公學校。辦理實習費。四。獎勵設置敎化委員。

本社主開 開襟講演 聽衆無慮千名

本社主開開襟運動講演會。去十二日午後七時。開於樺山小學校講堂。聽衆無慮千名。定刻一至。由本社大澤主筆。敍開會辭。次中央富士博士。京大醫學部長戶田正三博士。歷起發揮熱辯。至九時半。散會。

醫師發施療券

基隆內地人醫師會。爲鑒景氣非常不況。恐細民有不能療病者。去三日。寄附施療券三百枚。於基隆市社會事業助成會。開持有此券者。向內地人醫師會員。不論何人。皆可受診。如有貧病。須受施療者。須向方面委員受證明可也。

新銳潛水艦伊號 近將來航臺灣

十三日佐世保電。神戶三菱造船。建造新銳潛水艦伊號六十七。去十日於所屬軍港。回航繫留。同艦與吳建造之六十五。佐世保之六十六。俱係新銳艦。編成一潛水隊。明年度起。加入爲艦隊。臣國防在第一線活躍。近將爲各種訓練。一周往復。航走三千浬航程於炎熱洋上。作耐熱壓波諸訓練。且爲伊號潛水艦特性之長距離航續試驗。艦長逕澤少佐以下乘組員一同。忙於準備。其成績可期待云。

北華將僚會議告終 各軍地盤暫時不決 至學良後繼任命之間

十二日北平電。北伐時局善後事宜所關。開將僚會議。十一日夜祕開會。十二日朝四時散會。學良下野後各軍駐屯地盤其他。至中央任命後繼者之間。暫不決定云。

紅毛築港 後援會發會

竹帶紅毛庄。自設築港期成同盟會以來。全庄民。對于築港之熱誠。非常濃厚。其後更由紅毛湖口兩庄民。聯合組成紅毛築港之期成後援會。將以援助其築港需費。目下先由湖口庄山崎何友。紅毛庄徐榮。艦兩氏。各寄附金一千圓。訂本十四日。由兩庄選代表。齊集於紅毛公學校。集築港期成後援會發會式。併磋商關于築港調願進行方法。

米穀陳情員 竹州二名

新竹州米 制限反對陳情委員。去十三日在州會堂。選舉結局。決定拓殖合社小松吉久。米穀組合理事。鄭乾裕及鄭鴻源三氏。後日磋商經費等之支出方法。

時評

○本島中南部。最近被暴風三年爲學。一面警明外遊中有求撥軍費。自督府戰至最後之語。而後矛盾如是。其眞意在留任耶。求錢耶。○放言問題。對美使臣。雖已釋明。而法米正當管理之院。一過此衝和矣。全島教育。議洲發展。本太累人矣。○慎匪國。未赴前少年。牛劵文章。議洲發展。本太累人矣。

柔劍比賽

十三日午前九時。嘉陽三郡柔劍道大會。參加者二十四名。假總東都役所。舉行柔劍道大會。午後六時。散會。

大甲

浴場開放

去十二日午前十一時頃之。大甲海下火安港海水浴場。此間設備極完全。虛位待遊客。八日頃已開放。禁止入浴月餘。

颱風稍退

十三日午前十一時。大甲地方。暴風雨稍退。午後一時頃。風勢更增。上陸之颱風。向東北方進行。

定時總會

大甲女子青團。去十一日午後一時。假大甲公學校講堂。開定時總會。

音樂舞踊

大甲女子青團。去十一日午後七時。假大甲公學校講堂。開音樂舞踊發表會。開臨時總會。

臺中

選手大會

全縣選男子中等學校。軟式庭球。選手權大會。訂來十四日。開於臺中市市廳前廣場。

定時總會

臺中市。軍業者產株式會社。自滿洲事變以降。停止配當繼。續業經過。且下文藝銀。水壓貸。議欲加整。乃定來二十一日。在該社事務所。開定時株主總會。議案。一。役員改選。二。再選。一。役員改選。二。臨時株主總會。議案。一。再選。一。役員改選。二。臨時株主總會。議案。一。再選。一。役員改選。二。臨時株主總會。議案。一